

追悼 — チッコリーニと同世代の名演奏家達

フクロラム

今年2015年2月7日、名ピアニスト、チッコリーニが亡くなりました。89歳でした。今日は前半にチッコリーニの残したライブ録音を、後半は同世代の名演奏家達の演奏を集めてお聴きいただくことにしました。**アルド・チッコリーニ**は1925年8月15日イタリア、ナポリ生まれ、その後フランスに帰化しました。チッコリーニといえばサティ、サン=サーンス、ドビュッシー等のフランス音楽のスペシャリストという印象を拭い切れない時期がありました。しかしモーツァルト、ベートーヴェン、ショパン、リスト、スペイン物、ロシア物まで膨大なレパートリーを持つチッコリーニの真価が発揮されるようになったのは頻りに来日するようになった90年代以降で、持ち前の明晰で輝かしい音色に、自在さと風格が加わり、名匠としての尊敬を集めて行きました。今日は2008年83歳頃の録音でこの名ピアニストを偲びたいと思います。チッコリーニより3歳年下の名ピアニストに**イェルク・テムス(1928～ オーストリア)**がいます。フリードリヒ・グルダ、パウル・バドゥラ=スコダと共に“ウィーンの三羽がらす”と呼ばれ、古くから名声を博しました。指揮者では、**ピエール・ブーレーズ(1925～ フランス)**が同じ1925年生まれ。作曲家でもあり、現代最高の指揮者のひとりです。さらに1歳年上の指揮者に**ジョルジュ・ブレートル(1924～ フランス)**がいます。すでに60年代から活躍の場を拡げ、近年ではウィーン・フィルのニューイヤークンサートにも登場している名匠です。ブレートル得意のサン=サーンスでオルガンを弾く**マリー=クレール・アラン(1926～2013 フランス)**も同世代の名オルガニストです。ごゆっくりお楽しみください。

ヴォルフガング・アマテウス・モーツァルト(1756~1791):

ピアノ協奏曲第20番ニ短調K.466

アルド・チッコリーニ(ピアノ)
ローレンス・フォスター指揮モンペリエ国立管弦楽団
(2008.7.26 モンペリエ、ペルリオーズ歌劇場でのLive)

フレデリック・ショパン(1810~1849):

夜奏曲第18番ホ長調op.62-2

テモスト・ムソルグスキー(1839~1881):

組曲“展覧会の絵”～ババ・ヤガーの小屋 - キエフの大門

アルド・チッコリーニ(ピアノ)
(2008.8.29 ブリュクセル、パレ・デ・ボザールでのLive)

組曲“展覧会の絵”(ラヴェル編曲)～ババ・ヤガーの小屋 - キエフの大門

ジョルジュ・ブレートル指揮ベルリン・ドイツ交響楽団
(2008.10.27 ベルリン・フィルハーモニーホールでのLive)

*** 休憩 ***

ロベルト・シューマン(1810~1856):

幻想小曲集op.12～ 第1曲“夕べに”、第5曲“夜に”

イェルク・テムス(ピアノ)
(1992.5.26 カザルスホールでのLive)

モーリス・ラヴェル(1875~1934):

組曲“マ・メール・ロア” — ①眠れる森の美女のパヴァーヌ ②おやゆび小僧

③パゴダの女王レトロネット ④美女と野獣の対話 ⑤妖精の庭

ピエール・ブーレーズ指揮ロンドン交響楽団
(1995.5.24 サントリーホールでのLive)

カミーユ・サン=サーンス(1835~1921):

交響曲第3番ハ短調op.78～ 第1楽章第1部・第2部から、第2楽章第1部・第2部

マリー=クレール・アラン(オルガン)
ジョルジュ・ブレートル指揮ウィーン交響楽団
(1990.3.24 ウィーン・コンツェルトハウス大ホールでのLive)